

18-2 授業解題

島名：グローバル・エシックス

教科（領域）：国語

単元（教材）：「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」

プログラム名 「百年後のふるさとを守る」

対象：附属桃山小学校 5 年 2 組

授業者：井上美鈴 先生

1. グローバル・スタディーズの観点からみた本授業の「強み」

○本授業は、小学校 5 年生の国語科の伝記教材「百年後のふるさとを守る」を教材として、子どもたちが主体となった調べ学習を組み込み、「自分の生き方について考え、よりよく生きるとはどういうことか伝え合う」ことをねらいとした授業である。防災教育の観点も組み込まれた本教材は、国や文化を超えた人類共通の課題としての「自然災害」について、子どもたち一人ひとりがみずからの生き方と関わらせて学習することが企図されており、この点をもってグローバルな社会を生きるうえで必要な力量形成の授業として位置付けられる。

○教科書教材を使用しつつ、それをグローバル人材育成の観点からも読み拓き、国語科の学習とグローバル学習の両立を追求する本授業には、地に足のついた有効なグローバル授業の開発という強みがある。

○また教材（コンテンツ）が、江戸期末から明治期に活躍した実業家浜口儀兵衛の社会貢献を主題としている点から、本授業は、グローバル社会のリーダーが備えるべき「企業の社会的責任(CSR)」を扱うキャリア教育の側面を備えているとも評価できる。

○重ねて、浜口儀兵衛が江戸（東京）と故郷紀州（和歌山）を移動しながら活動し、また故郷の危機を救おうとした点を踏まえれば、本授業は、グローバル社会においてより顕著となる「移動する人々」についての学習（その最初のステップ）とも位置付けられる。

2. グローバル・スタディーズのカリキュラム開発にむけて

○本授業の所期のねらいは、「自分の生き方について考え、よりよく生きるとはどういうことか伝え合う」ことであり、伝記教材の読み解きと防災学習が柱となっていた。他方、現に実施された授業のプロセス、子どもたちの学習プロセス、また事後検討からは、先に述べたような「リーダーシップと社会貢献」や「移動する人々」といった、この授業が持つ豊かな可能性が改めて確認された。これらを明示的かつ系統的に追求する後続の授業開発（あるいは本授業のブラッシュアップ）は、次のステップとして検討に値すると思われる。

○またグローバルな防災教育という観点から言えば、地域社会に生きる文化的他者が災害時には災害弱者になってしまう、などの論点も考えられる。もちろん、国語科授業である本授業に対して過大な要求となることは言うまでもないが、他教科・他領域の学習活動とつなげる形での検討可能性を探るという意味で、補足的に提言しておきたい。